



地球上すべての人びとに平和に生きる権利を

# 9条地球憲章の会 第33回 公開研究会

## 大門 正克さんの講演

# いま、世界の片隅で日本国憲法をたぐりよせる 憲法理解を更新させる回路をさぐる



大門 正克 (おおかど まさかつ)

1953年生まれ。早稲田大学特任教授。日本近現代史を民衆史、社会史の視角から研究しています。

地域の歴史を探り、いまを生きる人に過去の経験を尋ね、歴史と現在を行き来するなかで、日本の近現代の歴史について考えています。

- 『世界の片隅で日本国憲法をたぐりよせる』(岩波ブックレット、2023年)
- 『増補版 民衆の教育経験——戦前・戦中の子どもたち』(岩波現代文庫、2019年)
- 『語る歴史、聞く歴史——オーラル・ヒストリーの現場から』(岩波新書、2017年)
- 『全集日本の歴史 15 戦争と戦後を生きる』(小学館、2009年)など。

2023年  
6月29日(木) 午後6時30分~8時30分

オンライン ZOOM による開催 参加費：1000円

参加申し込みは次の URL か、右の QR コードよりお願いします。

<https://forms.gle/FKsTUXEZt16NACoF6>



2023年3月、『世界の片隅で日本国憲法をたぐりよせる』を上梓しました。2022年2月、山形平和集会で日本国憲法について話す機会があり、そのすぐあとから始まった、ウクライナに対するロシアの侵攻と並行して憲法について考えてきたことをまとめたのが今回のブックレットです。

そこでは、「暮らしの中の違和感を手放さない、放置しない」「ローカルとグローバル」といった視点を通じて、憲法を絶対不変のものとするのではなく、ローカルな現場における実践を通じて、憲法理解を更新させ、グローバルな普遍につながる回路をさぐりました。講演では、ブックレットで私が考えてきた憲法理解の更新をめぐる話をします。

岩波ブックレット No.1076

## 世界の片隅で 日本国憲法を たぐりよせる

大門 正克

武力の前に、  
平和憲法は無力なのか？

暮らしのなかの実践が、  
グローバルな普遍へとつながる回路をさぐる

わかる、使えるくはじめる！  
岩波ブックレット

定価(本体630円+税)

『朝日新聞』書評欄で紹介

「……本書は四章構成。第一章から第三章は事例紹介だ。大阪の夜間中学で学んでいた在日朝鮮人の玄時玉(ヒョンシオク)さんと教師の岩井好子さん、岩手県北上市で地域に密着した読書会を続ける小原(おばら)麗子さん、岩手県陸前高田市で保育に携わってきた佐々木利恵子さんらへの聞き取りなどをもとに、彼女たちの活動がそれぞれ、日本国憲法の教育権と両性の平等、「慰安婦」問題と平和的生存権、「生命(いのち)」を含めた子どもの生存権などと関係していることを指摘する。

白眉(はくび)は最後の第四章。一〜三章を下敷きに、私たちの暮らす「世界の片隅」、世界史の大きな流れ、日本国憲法が実はつながっていることが明かされる。「性別の役割を巡って玄さんが感じたり、小原さんが慰安婦に関連して抱いたりした違和感は、ロシアのウクライナ侵攻で犠牲となった女性たちの姿をあわせ鏡のように映し出します。憲法が持つ普遍性について普段から考え、憲法に対する理解を常に更新していくことが必要なのではないでしょうか」

『朝日新聞』(2023.4.29朝刊より)

連絡先 9条地球憲章の会事務局 9.globalpeace@gmail.com

HP <https://www.9peacecharter.org/>

FB <https://www.facebook.com/9peacecharter/>